

一般社団法人日本粘土学会 2026 年度第 2 回常務委員会 議事録

日時：2026 年 1 月 24 日（土）13:00～15:00

場所：国際文献社アカデミーセンター5 階会議室および Web 会議

常務委員（14 名）：佐藤努、笹井亮、中戸晃之、鈴木正哉、渡邊雄二郎、佐久間博、  
井上紗綾子、森本和也、伊藤健一、横山信吾、亀島欣一、岡田友彦、  
小口千明、手束聡子

監事（2 名）：高木哲一、志々目正高

欠席者（1 名）：地下まゆみ

事務局：川島朝子

成立確認：常務委員総数 17 名の過半数 9 名 出席常務委員 14 名で常務委員会の開催は成立

### 審議事項

#### 1. 2026 年度 事業中間報告（資料 1）

各担当委員より資料をもとに説明があった。

粘土科学横山編集委員長より、2025 年 8 月に第 64 巻 2 号、12 月に第 64 巻 3 号を発行し、現在の受け付け論文数はゼロであるとの報告があった。

Clay Science 岡田編集委員長より、第 29 巻 3,4 号合併号を発行し、現在は 2 編を受理し、2 編が審査中との報告があった。

第 69 回粘土科学討論会について、亀島実行委員長および渡邊シンポジウム企画委員長より開催予告（会期と会場）を、First Circular として、ホームページおよび会誌「粘土科学」にて公表したとの報告があった。また、渡邊企画委員長より、2025 年 9 月 10 日のシンポジウムについて説明があった。

森本参考粘土試料委員長より、昨年末までに 8 件の申し込みがあったとの報告があった。

佐久間広報委員長より、ホームページの更新、Q&A 対応、X の更新を継続しているとの報告があった。

亀島渉外委員より、2026 AIPEA Newsletter の原稿を提出する準備を進めているとの報告があった。

笹井常務委員長より、2025 年度表彰について報告があった。学術振興基金賞については、応募がなかったため受賞なしであった。研究推進では、1 つの研究グループを支援中であるとの報告があった。

小口庶務委員より、JpGU2025 学協会会長会議に佐藤会長とともに出席したことが報告された。

井上庶務委員より、1 件の共催申込を受理したとの報告があった。また会員動向の報告があり、会費未納者で知り合いがいたら声がけをお願いしたいとの要請があった。和田光史先生の追悼文（和英）あるいは「和田信一郎先生による和田光史先生の追悼文（和英）を粘土科学およびホームページに掲載することになり、粘土科学横山編集委員長および佐久間広報委員長に依頼された。

笹井常務委員長により、第一回常務委員会および理事会の開催が報告された。

#### 2. 2026 年度会計中間報告（資料 2）

伊藤会計委員に代わり笹井常務委員長より、中間会計について報告があった。

#### 3. 粘土科学討論会

(1) 第 68 回粘土科学討論会会計報告（資料 3）

第 68 回粘土科学討論会の鈴木実行委員長より会計報告について説明があり、参加者は正会員 79 名、学生会員 21 名、一般非会員 7 名、学生非会員 9 名の計 116 名であった。収入総額は 1,198,000 円となり、67,918 円を学会へ返戻した。

(2) 第 69 回粘土科学討論会について（資料 4）

第 69 回粘土科学討論会について、亀島実行委員長より報告があった。会期は 2026 年 9 月 16 日（水）～18 日（金）、会場は岡山大学津島キャンパス環境理工棟 1 階大講義室を予定しているとの報告があった。渡邊シンポジウム企画委員長より、第 69 回討論会におけるシンポジウム企画について説明があった。本企画は 9 月 16 日 15 時から 3 時間枠で実施し、「多分野で活躍する粘土科学技術（仮）」をテーマに、30 分講演を約 6 件、他分野からの登壇者を招致して行う予定であるとの報告があった。登壇者への謝金・交通費については、討論会会計の範囲内で、実行委員長・企画委員長・会計による協議および理事会承認を経て対応することになった。

若手の会について、討論会の公告および会期中の公式イベントとして明記し、2026 年 9 月 15 日に開催することが確認された。開催に係る会場費等の費用は討論会予算の枠内で扱い、また組織形態については学会の下部組織とはせず、討論会内の公式企画として毎年実施する形を推奨し、詳細は理事会で審議の上、企画枠としての恒常化を目指すことになった。

4. 研究グループの内規の改訂について

笹井常務委員長より、研究グループの内規について、研究活動の成果の帰属という項目を新たに加え、「研究グループの活動で得られた成果に基づく知財については研究者に帰属する。」を加えることが提案され、理事会の承認を経て内規に明記することになった。

5. 日本学術会議会員候補者の推薦について（資料 6）

日本学術会議の法人化にともなう新体制では会員・連携会員・学協会のすべてが新規連携会員を推薦することになり、現在、2 名の推薦依頼が届いているとの説明があった。理事会承認後、執行部（会長・常務委員長等）で候補者を選定し、提出することになった。

6. その他

特になし

報告事項

1. 粘土の疑問 50 執筆スケジュールについて

中戸副会長より、執筆スケジュールの遅延について説明があり、3 月に執筆依頼、8 月末に原稿締切の予定に変更されたとの報告があった。

2. 慶弔費の運用指針について

佐藤会長より慶弔の運用指針について説明があり、過度に華美とならないことを基本に、会長経験者への弔電・供花を原則とし、金額は執行部判断とする方針が示された。本件は理事会へ報告することになった。

3. Asian Clay 2028 の進捗状況について（資料 7）

佐藤会長より、Asian Clay 2028 に関する進捗報告があった。開催日は 2028 年 5 月 28 日から 5 月 31 日までの 4 日間とし、6 月 1 日には巡検を実施する予定である。会場は札幌コンベンションセンターを予定している。今後のスケジュールとして、公式ホームページは 2027 年 4 月 1

日に公開予定であり、講演申込の締切は2028年2月28日、アブストラクトの提出締切は2028年3月31日とする予定である。

#### 4. 参考粘土試料の購入申込方法（資料8）

森本参考粘土試料委員長より、参考粘土の購入申込方法の変更について提案があった。申込は、フリーのGoogleフォームを利用し、できない方は従来通りにメールでやり取りをすることで承認された。次年度より申込方法を変更することで進めることになった。

#### 5. その他

特になし

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、常務委員長及び監事がこれに記名押印する。

2026年 月 日

一般社団法人日本粘土学会 常務委員会

常務委員長           笹井 亮           ⑩

監 事           志々目 正高           ⑩

監 事           高木 哲一           ⑩